

## 時間的制約をされた入院における術前不安への援助

佐藤真里 工藤聖子 小金山奈津子  
宮田真紀子 越田明子

青森県立中央病院

Key Words : ①手術前日入院 ②不安 ③時間的制約  
④納得 ⑤術前

### I. はじめに

手術目的で入院した患者は、疾患・治療・予後に対し、さまざまな心理的反応を示す。この心理的反応はさまざまな要因によって影響を受け、また、個人差がある。「手術を受ける患者の70%以上が何らかの心理的反応を抱えながら手術に臨んでいる」とされ、「入院してくる患者は、計りしれないほどの病気への大きな不安と、また不慣れな病院環境に対する漠然とした不安を持っている」<sup>1)</sup>と指摘するように、手術患者の多くは混沌とした心理的反応を基盤とする不安の中で術前を過ごす。さらに当病院においては、入院日数の短縮に伴い手術前日入院が増えており、適応するための絶対的な時間が限られる事となり、看護師は患者の心理的理解と、その心理に影響を与えている要因を把握したうえで、適切に援助していくことが求められる。しかし、手術前日入院では看護師が援助できる時間も限られ、患者の心理状態の把握や適切な援助も容易ではない。

手術前における患者心理の研究はこれまで多く行われているものの、手術前日という時間的制約下での心理状態については、まだ十分に検討されていない。そこで、手術前日入院の患者を対象とし、オリエンテーションを終えた時点での心理状態を、質問紙法を用いて調査したのでここに報告する。

### II. 目的

手術前日入院の患者が抱く術前の心理状態を探り、具体的な看護援助の方法を考える

### III. 研究方法

1. 対象者：平成20年7月～9月に、耳鼻科の手術目的で前日入院した患者のうち、調査協力に同意を得られた患者41名
2. 調査方法：先行研究<sup>2)</sup>に基づき、術前の主な心理要因について10項目作成し、アンケート調査を行った。手術前日、マニュアルに基づいたオリエンテーション

を済ませた後に質問紙を配布し、記入後、看護師が個別に回収した。

### 3. データの分析方法

質問紙法により、不安の強さや、手術経験の有無等の条件で区分し比較を行った。有意差検定は $\chi^2$ 検定で行った。

### 4. 倫理的配慮

入院後患者に研究方法・目的を説明し、データは研究以外では使用しないこと、質問紙は無記名で個人名が特定されないこと、参加は任意であり、拒否により不利益が生じないことを説明した。

## IV. 結果

1. 手術前日に不安を感じている人は全体の61%であった。
2. 不安の要因として最も強かったのは、手術後の痛みについての不安が68%であった。これを経験の有無で比較すると手術経験のある人が、有意に不安が弱かった。
3. 看護師の対応で安心感が得られたと答えた人は85%と高く、手術経験による有意差は認められなかった。

## V. 考察

### 1. 理解があっても納得がないゆえの不安

オリエンテーションで手術に対する理解が得られた直後にも関わらず、61%の人が不安を感じており、理解が即座に不安の解消にはならないことを示している。人間は、状況や環境への適応に一定の時間を必要とするものであり、対象となった患者は、頭の中での理解に続く、納得や腑に落ちるという気持ちのうえでの適応に至っていない状況にあると考えられる。つまり、短時間で合理的に理解が得られても、それを反芻する時間的猶予がなければ、本質的な不安の軽減に十分な効果が得られないことが示唆される。

### 2. 理解があっても経験がないがゆえの不安

オリエンテーションで「痛みはコントロールされる」ことの説明をしているにもかかわらず、痛みは最大の不安の要因であった。手術経験のある人は有意に不安が弱く、経験的に痛みをイメージできることが、不安の軽減に影響していると考えられる。「痛みを伴う検査や手術であっても、あらかじめ十分な説明を受け、行われる所業を理解していれば不安は少ない」<sup>3)</sup>と述べている。手術経験のない場合、時間のない状況において、理解・納得という切り口で不安の軽減を求める難しさも示唆している。

### 3. 理解・納得よりも、信頼と保障による安心感

絶対的に不安が強い状況においても、看護師の説明により安心感が得られた人は85%と高い。注目すべきは、手術経験の有無に関わらず安心感が得られる点であり、既に理

解・納得・経験がある人にとってもプラスになっている。つまり、看護師の働きかけは、手術や麻酔、疼痛管理等への理解や納得を第一義として行われたが、一方で、その直接的な結果の如何ではなく、その働きかけの過程で明らかになる、援助者としての信頼や援助を受けられる保障などが安心感をもたらしていると考えられる。

#### 4. まとめ

不安の軽減には、単なる理解のみならず、納得が不可欠である。看護師の働きかけが安心感を与え患者を力づけることから、入院後の説明では、信頼にも重点を置くことが効果的である。

#### VI. 文献

- 1) 小林司, 患者の心を開く (看護とカウンセリング), メヂカルフレンド社, p. 90, 1988.
- 2) 野田美紀: 一泊入院により白内障手術を受ける患者の心理 第37回日本看護学会論文集, p. 64 - 66, 2006.
- 3) 横田敏勝, ナースのための痛みの知識, 南江堂, p. 87, 1994.